

株主メモ

|         |   |
|---------|---|
| 事業年度    | 6月1日～翌年5月31日  |
| 定時株主総会  | 8月  |
| 基準日     | 5月31日   |
| 単元株式数   | 1株  |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社  |
| 公告の方法   | 電子公告の方法によります。ただし電子公告による<br>ことができない事故その他やむを得ない事由が生じ<br>た場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 |
| 公告掲載URL | <a href="http://www.pharmarise.com">http://www.pharmarise.com</a>           |
| 証券コード   | 2796 (ジャスダック)   |



<http://www.pharmarise.com>

<お問い合わせ先>

管理本部 経理部 IR企画課

TEL : 03-3362-7130 FAX : 03-3362-7190

E-MAIL : [ir@pharmarise.co.jp](mailto:ir@pharmarise.co.jp)

# Perfect

ファーマライズ株式会社

## 第23期 中間期株主通信

2008年6月1日～2008年11月30日

(証券コード 2796)



トップインタビュー

本物にとっての環境変化は脅威でなくチャンス。  
「職場奉仕の精神」で現場力を高める。



代表取締役社長 大野 利美知

第23期中間期（2008年6月1日～2008年11月30日）の業績について

当中間期の連結業績につきましては、厳しい経営環境の中、グループ全社で一丸となり積極的な事業活動を展開してまいりました。その結果、売上高は9,683百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は152百万円（前年同期比35.8%減）、当中間純利益は44百万円（前年同期比10.0%減）となりました。当中間期前半におきましては2008年4月に実施された薬価改定に伴う薬価引下や調剤報酬体系の変更の影響が色濃く残りましたが、現段階では対応施策の効果も顕在化されつつあり収益力は回復傾向にあります。また、新規出店も計画通りに進捗しております。なお、当期の配当方針につきましては1株につき6,000円とし、変更のない旨もあわせてご報告申し上げます。



ファーマライズの経営方針について

ここ数年で調剤薬局を取り巻く環境は大きく変化し、経営環境の厳しさは増えています。そのため、大手資本を中心とした業界内の合従連衡の流れはさらに加速するものと思われませんが、ファーマライズでは、現在起こっている環境変化の真意を、調剤薬局の機能を高めるための試金石と考えています。

現在起こっている環境変化の具体的要因は主に次の4つの観点に分類できるものと認識しています。

- ① 市場増加率の縮小（医薬分業伸長率の鈍化）
- ② 収益機会の減少（薬価改定、長期処方制限の撤廃による処方箋枚数減少）
- ③ 調剤サービスの高度化（在宅医療等を重視する調剤報酬体系への変更、後発医薬品の普及促進）
- ④ 競争の激化（登録販売者制度、周辺業種の調剤薬局参入）

ファーマライズは、これらの要因を的確に分析したうえで、スピーディーかつしなやかに対応することを重要方針としています。そして、現在の経営環境を脅威ではなくチャンスとして捉え、社員全員が一丸となり本格志向の調剤薬局を目指して鋭意取り組んでいます。

ファーマライズの成長戦略について

ファーマライズの成長戦略はソフト戦略とハード戦略から成り立っています。まず、ソフト戦略ですが、地域医療機関とマンツーマン型の関係を構築し、患者本位の質の高い薬剤治療を実現することとしています。2008年4月の医療法改正（調剤報酬体系の改定）において、在宅医療分野（在宅患者訪問薬剤管理指導料の新基準が制定された）に重点が置かれていましたが、ファーマライズは在宅医療等に同業他社に先駆けて取り組んでおり、いち早く新しい調剤報酬体系に適応できると考えています。

また、ハード戦略の中心は薬局の新規開発です。新規開発の基本方針として、①地域ドミナントの形成促進、②新たなドミナント拠点の開発、③医薬分業率上昇地域への進出、④マンツーマン型医療機関との提携、の4つを掲げています。開発方法は、自社開発とM&Aの両面から推進しています。

在宅医療・施設調剤への取り組み、後発医薬品への取り組みについて

在宅医療・施設調剤では、医師・看護師・薬剤師が三位一体となって患者に治療を施します。その中で薬剤師は薬学医療の専門家としての役割を担い、「地域医療チーム」の一員となって直接的に地域医療へ参画します。一般的な調剤薬局が、そのような在宅医療・施設調剤に取り組むには、専門的スキルや医療機関とのコミュニケーション等、一朝一夕では習得できないノウハウが必要となります。ファーマライズは1994年に福島で在宅ホスピスの開拓に着手して以来、早くからこれらのノウハウの蓄積と社内教育を進めてまいりました。在宅医療・施設調剤のノウハウはファーマライズにとって最も重要な優位性のある経営資源の一つとなっています。

後発医薬品については、国民医療費削減の観点から国策として普及を推進する方向性が明示されています。ファーマライズでは、社内研究機関であるファーマライズ医薬情報研究所において後発医薬品に関する情報収集とデータ検証を進め、「後発医薬品の推奨品目」を整備することで、信頼のおける後発医薬品の品揃えを実現しています。

株主、投資家の皆様へのメッセージ

ファーマライズの戦略にとって、質の高い薬剤師を育成することは最も重要な命題です。ファーマライズで考える質の高い薬剤師とは、医療人として高い見識と専門的知識を有していることに加え、「職場奉仕の精神」を身に付けていることです。「職場奉仕の精神」とは、「互いの実益」を前提とした結束ではなく、真に患者や同僚の幸福を願い行動する精神です。これは、働きやすい職場環境の醸成や地域医療の円滑な形成につながり、医療従事者にとって今最も必要な考え方だと思っています。

ファーマライズはこの「職場奉仕の精神」をイズムとして現場に浸透させ、今後ともさらに現場力を高めていきたいと考えています。

株主、投資家の皆様には、引き続きご理解とご支援を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

# トピックス

## 1. ファーマライズの現場力

### ①質の高い薬剤師の育成

ファーマライズの大きな特長は「質の高い薬剤師の育成力」です。基礎研修をはじめ、薬剤師としての専門性・スキルを磨く新人薬剤師通信教育、店舗運営や経営に関する知識を身につける店長セミナーなど、質・量ともに業界トップクラスの教育プログラムが用意されています。しかし、これらの研修は受け身で行うものではありません。当社の薬剤師には「研修はあくまで自分自身を成長させるきっかけ」として認識させ、患者さまの気持ちを常に考えながら創意工夫する自律的な成長を促すことを心がけています。

現在私は、薬局統括1部課長として各店舗の統括業務を担当していますが、私自身もファーマライズの教育プログラムを通して、患者さまとの折衝や部下との接し方などさまざまなことを学びました。そして今後もさらに、自分の能力を高めていきたいと考えています。



薬局統括1部 課長  
田中 義弘（薬剤師）

### ②在宅医療 施設薬剤師への取り組み例



#### <管理薬剤師 菅原敏江のある1日>

|   |  |
|---|--|
| 8:55<br>朝礼  | まず各スタッフの役割分担を確認。何でも言い合える風通しの良い環境をつくっていくことは、店長・管理薬剤師として重要な仕事です。   |
| 9:00<br>店舗での業務  | 処方せんに基づいて調剤・監査・服薬指導・投薬を行います。患者さんが安心して気持ちよく帰っていただくことを常に心がけています。   |
| 14:30<br>毎週水曜日はドクターとともに特養施設を訪問し、患者さんの受診にも立ち会います。帰社後と木曜日に薬の準備（調剤・監査・薬歴の記入など）を行い、それを金曜日にお届けします。 |  |
| 15:30<br>患者さん宅へ   | すでに6年間のお付き合いになる94歳のおばあちゃんのお宅へ。当初は手探り状態でしたが、一歩、一歩信頼関係を築いていった結果、いまではすっかり打ち解けて心を開いてくれるようになりました。                     |
| 16:00<br>帰店   | 一日の業務のまとめと次回への準備、引き続き調剤業務、スタッフのシフト調整などを行います。また業務の合間を見て、エリア内委員会活動（在宅・施設・ホスピスの事例検討、研修会企画）のための資料を作成。すべての業務が終了後、帰路へ。 |

## 2. 計画的な研修制度

ファーマライズの研修制度は、対象者と目的を明確にしたうえで、多面的に各人のスキルアップを促すよう計画的にプログラムしています。当中間期も内定者研修を始め、新入社員フォローアップ研修や店長研修等を実施いたしました。



新入社員フォローアップ研修



店長研修（大阪）

## 3. 第6回ファーマライズ学術大会

第6回ファーマライズ学術大会を10月12日に開催しました。今回のテーマは「使命の追求」。其々の立場や経験を基にした研究発表をする場として、全国から集結する大規模な大会です。自ら発表する・それが社員の成長に繋がると考えています。



一般演題発表



開会式

## 4. 新規開局店舗

当中間期までに5店舗の新規開局を行いました。6月に長浜店（滋賀県）、7月にいまいせ店（愛知県）、8月に西蒲薬局（新潟県）、10月に前橋店（群馬県）、11月に野々市店（石川県）を開局し、新規開局状況は概ね計画通りに進んでいます。



アプル薬局前橋店



トリウム西蒲薬局



野々市ファーマライズ薬局

## 中間連結財務諸表

### 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目          | 第22期<br>(平成20年5月31日現在) | 第23期中間期<br>(平成20年11月30日現在) |
|--------------|------------------------|----------------------------|
| ●資産の部        |                        |                            |
| 流動資産         | 4,640                  | 4,795                      |
| 固定資産         | 4,679                  | 4,955                      |
| 有形固定資産       | 2,692                  | 3,035                      |
| 無形固定資産       | 961                    | 961                        |
| 投資その他の資産     | 1,024                  | 958                        |
| 繰延資産         | 3                      | 2                          |
| 資産合計         | 9,323                  | 9,752                      |
| ●負債の部        |                        |                            |
| 流動負債         | 5,472                  | 5,492                      |
| 固定負債         | 2,304                  | 2,712                      |
| 負債合計         | 7,776                  | 8,205                      |
| ●純資産の部       |                        |                            |
| 株主資本         | 1,513                  | 1,514                      |
| 資本金          | 580                    | 580                        |
| 資本剰余金        | 527                    | 527                        |
| 利益剰余金        | 405                    | 407                        |
| 評価・換算差額等     | 14                     | 12                         |
| その他有価証券評価差額金 | 14                     | 12                         |
| 少数株主持分       | 20                     | 20                         |
| 純資産合計        | 1,547                  | 1,547                      |
| 負債及び純資産合計    | 9,323                  | 9,752                      |

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目              | 第22期中間期<br>(平成19年6月1日から<br>平成19年11月30日まで) | 第23期中間期<br>(平成20年6月1日から<br>平成20年11月30日まで) |
|------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △ 43                                      | 788                                       |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,302                                   | △ 393                                     |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 953                                       | △ 140                                     |
| 現金及び現金同等物の増減額    | △ 392                                     | 253                                       |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 1,695                                     | 1,443                                     |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 1,302                                     | 1,696                                     |

### 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目          | 第22期中間期<br>(平成19年6月1日から<br>平成19年11月30日まで) | 第23期中間期<br>(平成20年6月1日から<br>平成20年11月30日まで) |
|--------------|---|---|
| 売上高          | 8,905                                     | 9,683                                     |
| 売上原価         | 7,847                                     | 8,587                                     |
| 売上総利益        | 1,058                                     | 1,096                                     |
| 販売費及び一般管理費   | 821                                       | 944                                       |
| 営業利益         | 236                                       | 152                                       |
| 営業外収益        | 10  | 9   |
| 営業外費用        | 75  | 70  |
| 経常利益         | 171                                       | 91  |
| 特別利益         | —   | 20  |
| 特別損失         | 42  | 2   |
| 税金等調整前中間純利益  | 128                                       | 109                                       |
| 法人税、住民税及び事業税 | 82  | 63  |
| 法人税等調整額      | △ 5                                       | —   |
| 少数株主利益       | 2   | 0   |
| 中間純利益        | 50  | 44  |

● (中間連結貸借対照表)  
● 第23期中間期には5店舗の新規開局を行ったため、第22期末と比較して資産合計が約4億円増加しています。

● (中間連結損益計算書)  
● 第23期中間期は前年同期と比較して、薬価改定や新卒薬剤師の採用拡大の影響により増収減益となりましたが、概ね当初の計画通りに進捗しています。

● (中間連結キャッシュ・フロー計算書)  
● 第23期中間期は棚卸資産や仕入債務の圧縮に取り組んだため、前年同期と比較して営業活動によるキャッシュ・フローが大幅に増加しています。

## 会社情報

### ■ 会社概要

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 設 立         | 1984年6月                    |
| 社 名         | ファーマライズ株式会社                |
| 資 本 金       | 580,075千円                  |
| 本 店 所 在 地   | 東京都中野区中央1-1-1              |
| 主 な 事 業 内 容 | 保険調剤薬局の経営                  |
| ホ ー ム ペ ー ジ | http://www.pharmarise.com  |
| 主 要 取 引 銀 行 | 株式会社三菱東京UFJ銀行<br>株式会社みずほ銀行 |
| 連 結 従 業 員 数 | 621名 (2008年11月末現在、非常勤含む)   |
| 薬 剤 師 数     | 324名 (上記内数)                |

### ■ 役員 (2008年11月30日現在)

|           |         |
|-----------|---------|
| 代表取締役社長   | 大 野 利美知 |
| 専 務 取 締 役 | 林 良 行   |
| 常 務 取 締 役 | 大 野 小夜子 |
| 常 務 取 締 役 | 村 上 典 夫 |
| 取 締 役     | 秋 山 昌 之 |
| 取 締 役     | 小 高 芳 夫 |
| 取 締 役     | 三 浦 誠   |
| 監 査 役     | 地 搦 幹 夫 |
| 監 査 役     | 辻 信 彦   |
| 監 査 役     | 佐 藤 勝   |

### ■ 株式の状況 (2008年11月30日現在)

|          |         |
|----------|---------|
| 発行可能株式総数 | 28,620株 |
| 発行済株式総数  | 7,155株  |
| 株 主 数    | 561名    |

### ■ 大株主の状況 (2008年11月30日現在)

| 株主氏名                           | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|--------------------------------|--------|---------|
| 大野 利美知                         | 3,511  | 49.07   |
| 林 良行                           | 367    | 5.12    |
| ファーマライズ従業員持株会                  | 351    | 4.90    |
| 大野 小夜子                         | 248    | 3.46    |
| HSBCファンドサービス<br>クライアントアカウント006 | 164    | 2.29    |

### ■ 主要仕入先

株式会社スズケン  
株式会社クラヤ三星堂 他

### ■ 連結子会社

| 名称             | 住所      | 事業内容   |
|----------------|---------|--------|
| 株式会社みなみ薬局      | 静岡県御殿場市 | 調剤薬局事業 |
| 株式会社南魚沼郡調剤センター | 新潟県南魚沼市 | 調剤薬局事業 |
| 株式会社双葉         | 京都市東山区  | 調剤薬局事業 |
| 株式会社ふじい薬局      | 北海道苫小牧市 | 調剤薬局事業 |